

[54] Title of the Utility Model: Speaker

[11] Utility Model Unexamined Publication No. S61-107288

[43] Date of publication of application: July 8, 1986

[21] Application number: S59-192408

5 [22] Date of Filing: December 18, 1984

[72] Inventor: M. Hirayama

[71] Applicant: Sharp Corporation

[51] Int.Cl.: H04R 1/02 H04N 5/64

10 [What is claimed is:]

A round, or oval, cone-type speaker provided with a sponge or the like sound-permeable flat and square structure disposed in the front of the speaker; thereby, the speaker is made to appear as if it is a flat-diaphragm speaker.

15 [Brief Description of the Drawings]

Fig. 1 is a perspective view showing a speaker in accordance with an exemplary embodiment of the present utility model. Fig. 2 shows the cross sectional view, Fig. 3 the front elevation. Fig. 4 and Fig. 5 show the front view of conventional configurations.

[Reference Numerals]

20 6 Speaker, 10 Intermediary structure

# 公開実用 昭和61-107288

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-107288

⑬ Int. Cl.

H 04 R 1/02  
H 04 N 5/64

識別記号

1 0 4

庁内整理番号

Z-7314-5D  
7013-5C

⑭ 公開 昭和61年(1986)7月8日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 スピーカ

⑯ 実 願 昭59-192408

⑰ 出 願 昭59(1984)12月18日

⑱ 考 案 者 平 山 雅 三 大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内  
⑲ 出 願 人 シャープ株式会社 大阪市阿倍野区長池町22番22号  
⑳ 代 理 人 弁理士 福士 愛彦 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

スピーカ

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 円形もしくは楕円形のコーン型スピーカの前面にスポンジ等の透音性のある方形の平面構造体を配置してなり、外観を平面振動板型スピーカとなすことを特徴とするスピーカ。

3. 考案の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本考案は、テレビジョン受像機等に使用するのに好適なスピーカに関するものである。

<従来技術>

従来よりテレビジョン受像機では、音声多重放送等の受信に対応するために、キャビネット前面のブラウン管の左右にスピーカを設け、ステレオ放送の再生を可能にしたものがある。

上記スピーカには通常円形の安価なコーン型スピーカが使用されることが多いが、近年のようにテレビジョン受像機が小型化され、ブラウン管左

右のキャビネットの幅が狭くなると、円形のスピーカではその口径を小さくする必要が生じ、振動板面積が減少することから低音再生に限度があった。

＜考案が解決しようとする問題点＞

したがって、上記振動板面積を増加させるために、上記円形のスピーカに代り第4図に示すように楕円形のコーン型スピーカ1, 1や、第5図に示すように方型の平面振動板型スピーカ2, 2を用いるものが一部で製造されている。

ところが、前記、楕円形のコーン型スピーカでは、その外観がキャビネットに合わず、デザイン上の自由が少ない欠点があった。そのため、スピーカ前面にスピーカの形状を隠すための格子状のグリル<sup>3.3</sup>を必要とするものであった。また後記の方型の平面振動板型スピーカは外観が良くデザイン上の自由も大きいものの、その振動板の材質に軽量で高強度の材料を使用し、その生産量も少ないために高価なものになり易く、広く一般のテレビジョン受像機に使用するのは困難なものであった。

＜問題点を解決するための手段＞

本考案は上記欠点を除去するものであり、円形のものに比べて振動板面積が大きくとれ平面振動板型スピーカに比べて比較的安価な楕円形のスピーカを用いながらも、この楕円形のスピーカの外觀を平面振動板型スピーカと近似するものとなしデザイン上の自由を大きくしたスピーカを提供するものである。

＜実施例＞

以下、本考案の一実施例を図面に従って説明すると、第1図及び第2図において、4はテレビジョン受像機のキャビネットであり、スピーカの口径に略等しい透孔5を穿孔し、この透孔5に合わせて、キャビネット4の背面からは楕円形のコーン型スピーカ6を設けている。この透孔5の周囲には方形の段部7を形成し、段部7の周囲には適宜ゴム輪8を螺<sup>球</sup>回している。そしてこの段部7には接着剤9により連続気泡型スポンジ等の透音性の良好な材料からなる方形の平面構造体10を取付けている。更にこの平面構造体10の周囲には

適宜間隔をおいて段部 1 1 を形成し、金網 1 2 を取付けスピーカを保護しているものである。

したがって、上記スピーカは第 3 図に示すように正面から目視した場合、金網 1 2 を通して周囲をゴム輪 8 で囲まれた平面構造体 1 0 が見えるだけで、スピーカ 6 を隠すことができ、なお且つ、スピーカ 6 の音が前記平面構造体 1 0 を通じて鳴らされるので、外観上からも平面振動板型スピーカが鳴っているように見えるものである。

#### <効 果>

以上のように、本考案のスピーカでは、円形もしくは楕円形のコーン型スピーカの前面に透音性のある方形の平面構造体を配設し、その外観を平面振動板型のスピーカとなすものなので、実際の平面振動板型スピーカを用いるよりも安価に振動板面積の増加を計ることができるとともに、外観が良くデザイン上の自由も大きくすることができるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案のスピーカの一実施例を示す斜

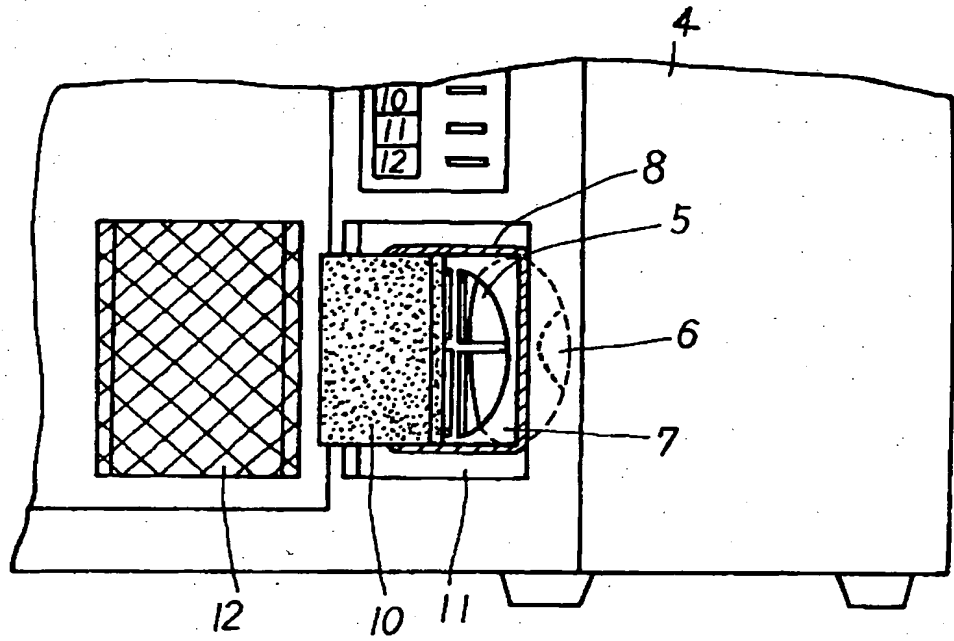
(4)

公開実用 昭和61-107288

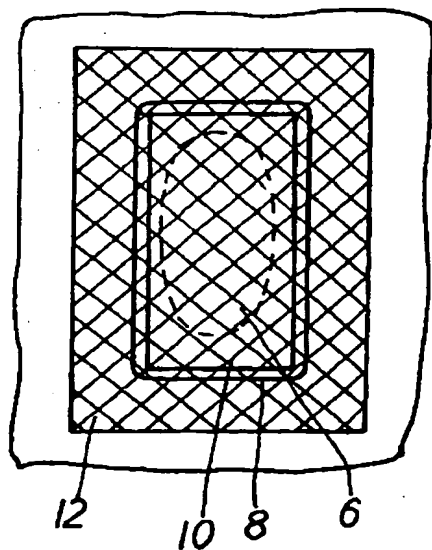
視図、第2図は同断面図、第3図は同正面図、第4図及び第5図は従来例を示す正面図である。

6…スピーカ、 10…平面構造体

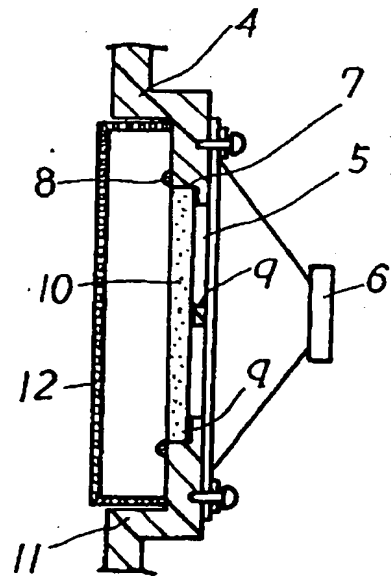
代理人 弁理士 福 士 愛 彦（他2名）



第 1 圖



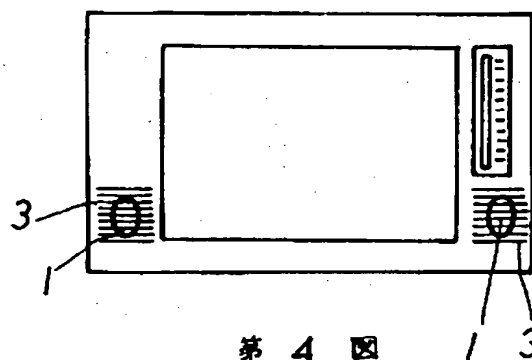
第 3 圖



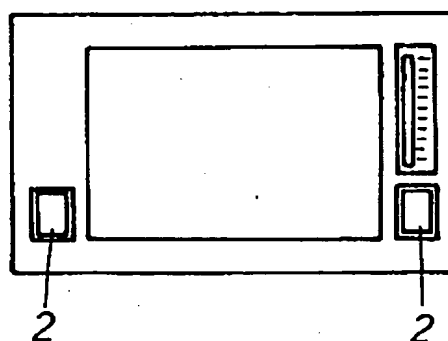
第 2 圖

321  
中國 107288





第 4 図



第 5 図

出願人 シャープ株式会社  
代理人 福士愛彦 (独2名)

922

実開 61-107288